

竹田市経済活性化促進協議会

暮らしのサポーター養成セミナー（直入地域）報告書

1. セミナー： 第4回 地域福祉・介護分野 暮らしのサポーター養成セミナー
2. テーマ： 『だれもができるボランティア』
3. 日 時： 平成24年1月22日（日）10：00～12：00
4. 場 所： ながゆ道の駅 2F
5. 講 師： 竹田市ボランティア協議会
会長 吉弘 央 氏
6. 内 容

・開催挨拶・講師紹介

事務局：渡部より本日の講師、竹田市ボランティア協議会 会長：吉弘^{よしひろ} 央^{ひろし}氏の紹介をする。

・講師自己紹介

38年間教壇に立ち今から20年前に退職。現在80歳。

退職後、県より相談ボランティアの誘いを受け1年間の学習会を受け、相談ボランティアを始め今年で20年目になる。相談活動を通じ、この20年、自分の人生にとって非常にありがたいことだと思っている。

自分のボランティア活動を通じて、自分の経験・思い等を皆さんに伝えて「ボランティアとは、どういう風に進めていけば良いのか。日常生活の中でボランティアとは、どういうことなのか。」と一緒に考えていきたい。

※ 現在、吉弘氏が行っているボランティア活動「傾聴ボランティア」とは・・・

傾聴⇒「耳を傾けて聞く」

相談者（思い悩み、苦しんで相談に来る）



決して「否定」・「指示、強制」をしてはいけない。

否定：「これは間違いですよ。」「法律的に許されませんよ。」など

指示・強制：「こうしてはいけない。」「こうしなければいけない。」など



（傾聴）

ひたすら相手の話を聴く。（聞くではなく聴く「身を入れてきくの意」）



（受用・共感）

相談者に、自分の話、気持ちを聞いてもらえた。分かってもらえた。という
気持ちが生まれ、「相談して良かった」と思ってもらえることが大切。

- ・皆さんが、相談を受けた時「でも、」という言葉を使っていませんか？
「でも、」←否定する言葉を使う。＝ 相談活動では、半分以上失敗である。
- ・間違っていることに、自分自身で気付くような相談でなければならない。

※実際の活動を元にお話ししていただく。

自治会活動で皆に地区行事に参加してもらえるように呼びかけをする。

◎みなさん家から出ましょう。

- ・引きこもりが多く運動不足になりがち。
- ・人付き合いが少ない。交流が少ない。
- ・周囲の様子がわからない。

⇒◎（仕掛けⅠ）運動会等参加に向け仕掛ける。

- ・車を持っている方に一緒に乗せて連れて行ってもらうよう呼びかけ。
- ・自治会の中でお弁当を準備する。
- ・誰でも、行った人は必ず1回は出れるような種目を作ってもらった。

⇒◎（仕掛けⅡ）とにかく家から出る→出れば誰かに合う（交流がある）→言葉を交
わす。（おはようというだけでも良い）→運動にもなる。・地区内に交流の場を
作った。（活動）→みんなでゴミ拾いをする。（月1回）→公園の草刈りをする。
（月1回）来るだけでも良い。・4・5年活動している「おしゃべりサロン」現
在、地区内70戸

※自分一人がボランティアをするのではなく、一人がもう一人に声を掛け、またそ

の人が別の人に声を掛ける。そうやって、どんどん輪を広げていくことが大切である。

・講義

「だれもができるボランティア」

I はじめに

①17年前の神戸・淡路大震災でボランティア活動に参加した学生の自問自答

- ・実際にボランティア活動に参加した学生が、「ボランティアとはなんだろう？」
「どうあるべきか？」と活動をつうじ触れ合う中で、感じたことが書いてあった。

⇒・ボランティアとは、「ボランティアをする人と、される人との共同作業ではないか。」
「一方的なものではない。」

- ・自分は、人のために捧げ尽くしたと思っているが、実は、自分が多くのものをいただいた。これが、ボランティアであると思う。

②ボランティアは、「愛」と「感謝」のころから生まれる。(アグネスチャン)

- ・ボランティアとは、人様からしていただいた。それだけ人様にお返りする。

③ワーク 1 (それぞれ下記の内容を考えてもらう)

1) 人様からしてもらった

2) 人様に対して何かをした

1)、2) 書いた数を下記の分数に当てはめ、分子・分母どちらの数が大きいか聞いてみる

理想は、分子・分母が 1/1 になるのが良いという意見もある。

⇒「人からしてもらったら、人に返す。」

- ・ほとんどの参加者が、分母の方が大きくなると回答。
- ・人のためになったことを数えようとしてもなかなか少ない。

$$\begin{array}{ccc} & \text{人様に何かをした} & (\quad) \\ \text{生涯} & \text{—————} & = \text{———} = \\ & \text{人様からしてもらった} & (\quad) \end{array}$$

Ⅱ事例 ワーク2 4つの事例に対し感想を述べてもらう

①一杯のお茶

・ある老夫婦より年末に、何年も障子を張り替えていない家の障子張りに誰か加勢をしてもらえないかと連絡が入る。地区の方・社協の方に手伝ってもらい4時間掛けて終わった。涙を流しながら「ありがとうございました。」という言葉聞いた時、こちらにも胸を打つものがあった。「これで明るい正月を迎えられる。」と一杯のお茶を出して頂きました。こちらにも、その気持ちだけで満足。

②老夫婦と青年（出会いを通じ、生きる喜びを知った）

・老夫婦が、毎日公園へ散歩に出かけている。ベンチで休んでいると青年が通りかかる。「おはようございます。」毎日声を掛けるようになる。だんだん青年との距離が縮まっていき毎日、言葉を交わすようになり、散歩も楽しいものとなった。
⇒人と人が触れ合って何かを感じる。老人は、青年から力・元気をもらった。これも一つのボランティアである。

③本屋の主人（新聞記事より）

・毎日、立ち読みに来る青年に対して・・・毎日来る立ち読みする青年は、回り道をせず。近道である水路をまたぎながら通ってきていた。主人が、見かねて小さな橋を架けた。しかし、その後も青年はその橋を渡って来ていたが、何も言わない。
⇒店主は、「自分が架けた橋を通ってくるんだ。」と自分の思いだけがそこにある。相手が、どう思っているかは不明のまま。⇒自分が、人のために、何かをする。自己満足する。「自分が、何かのために役立った。」と自分の気持ちが満たされた。

④清掃活動 30 余年（竹田市内）

・30 年位なると思うが、駅付近の清掃活動をしている。毎朝、掃除用具一式持ち、清掃活動をしている方がいる。自分が病気以外は、雪でも雨でも合羽着てしている。（現在も継続中。（本人は、それが楽しみだと言っている）

Ⅲ ワーク3 個人の感想・意見をグループで話し合いまとめ発表する。（3班あり）

ボランティア援助・支援を受けた人（疑問・意見含む）

①高齢者世帯の方と子どもさん

②老夫婦（寂しくて、青年に会い声を掛けてもらうことを期待していたのでは？）

③本人は気付いていないかもしれないが、立ち読みに来る学生。

④地域の皆さん全員だと思う。

・常に感謝の気持ちを忘れないことが大事ではないかと感じた。

・支援を受けた方は、大変いい気持ちになったと思う。助かりましたと、手を合わせるような気持ちになったのではないかな。

IV ボランティア

- ・ ボランティア ①ラテン語 (voluntas) 自由意思、正義、勇気
- ②英 語 (volunteer) 義勇兵、志願兵、奉仕者
- ・ ボランティアの理念
 - ①自発性 (自主・自由意思)
 - ②利他性 (公共・公益・社会性)
 (自分の利益(幸福)よりも、他人の利益(幸福)を考える)
 - ③無償性 (無給・無報酬)
 - ④一貫性・継続性
 - ⑤先駆性 (先見・創造・開拓性)

V ボランティアのころ

- ①人に奉仕するころ (愛・感謝)
- ②人を大事にするころ (人権の尊重)
- ③社会をよりよくしようとするころ (義務感・責任感)
- ④人としてより良い生き方を求めるころ (自己実現)

【まとめ】

身の回り・地域・社会でいろんな問題の改善解決について自分の意思で自発的に取り組んでいく社会活動。結果として人や社会のために役立つ、自分のためになる人・社会のため⇒結果として自分のため。求めなくても⇒結果として大きな代償

・ ボランティアとボランティア活動 ※資料2 参照

対象 (個人・集団・地域・国際)

内容 (奉仕活動・福祉活動・簡易・専門)

支援 (人・物・金)

- ・ 高齢者を対象⇒外出支援・買い物支援 (有償あり)、話し相手、食事サービス
- ・ 障がい者を対象⇒要約筆記、手話・点字
- ・ 子供を対象⇒読み聞かせ、子育て・育児支援、放課後学習援助
(一定の子供を対象)

⇒防犯パトロール、街頭指導 (不特定多数)

- ・ リサイクル⇒古紙回収、切手回収、割り箸回収 もボランティアである。
- ・ 8年前から、割り箸を回収し製紙会社に送っている。

※3人分の木の割り箸で、A4サイズの紙1枚になる。

(現在、宮崎県日南市に工場がある。) 昨年10月に割り箸700kgを持って行った。

※誰もがボランティア。「誰でも、いつでも、どこでもできる」

ニーズを正しく把握し、誠意をもって、それに正しくこたえる。

※ボランティアとは、いたるところにある。やる意志さえあればどんな事でもボランティア。身近なところにある。

- ・竹田市で行われているボランティアは、ほとんど「奉仕ボランティア」か「福祉ボランティア」が多い。

「奉仕ボランティア」⇒公園の掃除、地域で花を植える。趣味を生かしたボランティアが多い。

「福祉ボランティア」⇒習字を教える。慰問をする。

VI ボランティア・ボランティア活動の課題

1) ボランティア活動というけれど

- ・迷惑ボランティア



- ・割り当てボランティア←自発的でない(動員) 受ける側の心構えも変わる。
- ・発表の場を利用する・リハーサルに利用する。
- ・商品売りつける。
- ・必要以上に世話をし過ぎる・押し付ける。
- ・個人情報に人に漏らす

- ・マイナスボランティア
- ・勝手ボランティア

※本当のボランティアのころ、ボランティアの理念に沿っていないことが、現実にあるということに触れて考えいもらいたい。

2) ボランティアの多様性

- ・活動範囲
- ・同 時
- ・活動内容
- ・専 門 化
- ・ニ ー ズ

3) 有償ボランティアの問題

- ・会員制
- ・ポイント制(料金・謝金)
- ・拠 点(事務局体制)

※県下における有償ボランティア

- ・住宅参加型福祉サービス
 - 竹田市 直入「ぽかぽか家事援助サービス」
- ・大分市 ファミリー・サポートセンター
- ・中津市
 - ・まこも 有料在宅サービス
 - ・寄り合い所 すずめの家
 - ・北部えがおサービス
 - ・沖代どんぐりサービス

【まとめ】

誰もがボランティアでる。誰もができるし、誰もがされる。どこでも、いつでもできる。但し、ボランティアのところが大切である。ところが無ければ駄目である。

・質疑応答並びに意見交換

事務局 渡部より、中津市沖代地区の視察研修の報告。

・閉 会